（様式例２）

平成２２年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立大垣工業高等学校　学校番号　２７

Ⅰ　自己評価

１　学　校　教　育　目　標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体のうえに、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 （１）社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 （２）ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 （３）自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。

２　評価する領域・分野	◇ 特別活動
３　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	《アンケート結果より》 ・学校行事の充実について、保護者は９割５分以上が、「あてはまる」と回答しているが、生徒の回答は８割に届いていない。一部生徒の自らの取り組み状況の度合いが、差となって表れているか。 ・部活動の活発さについて、保護者は８割５分、生徒は９割５分以上が「あてはまる」と回答しており、変わらぬ充実度がうかがえる。 ・ボランティア活動の啓発・機会提供について、保護者は９割、生徒は８割が「あてはまる」と回答しており、効果的に行われていることが分かる。
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	（１）　豊かな人間性や自ら学び考える力などの「生きる力」や「活力」ある生徒の育成に努める。**〈リーダーの養成〉** （２）生徒が自発的、自治的な活動を展開し、集団や社会の一員としての自覚を深め、自己を生かす能力が育つよう指導・援助を行う。**〈ボランティア精神の育成〉** （３）ホームルーム活動を中心とした特別活動全般を通して、学校生活への適応及び円滑な人間関係の形成を図るとともに、人間としての在り方・生き方に関する指導を充実する。**〈ホームルーム活動の活性化〉**
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・全職員による行事への参加体制を組織する。 ・生徒が自発的に活動できる機会を提供し、分掌外職員に呼び掛ける。

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
◇　生徒会 （１）生徒会活動への積極的な参加・協力を図るため、生徒会執行委員会・議会・各種委員会等の活動が円滑に行えるよう指導を行う。 （２）各種生徒会行事への積極的な参加を促し、生徒の学校・学級への所属感及び自主的・実践的な態度を育てる。	（１）生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事を計画・運営し、円滑に進めることができたか。 （２）生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事の取り組みに、充実感を覚えたか（アンケートによる）。
◇　特活 （１）ホームルーム活動を通じて学級の一員としての自覚を深め、お互いを高め合う人間関係を形成する。 （２）部活動への積極的な参加を促し、達成感及び自己成就感を味わわせることで、自己を生かす能力を育てる。	（１）球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事に参加する中で、クラス単位の取り組みに、充実感を覚えたか（アンケートによる）。 （２）年間を通して、部活動に積極的に参加したか。

8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10　評　価
◇　生徒会 ・毎週、定例の執行部会を開き、連絡の徹底及び、生徒の自主的な活動を促し、各種行事に執行部が積極的に関わるよう、事前のマニュアル作り・当日の指導等を行った。 ・毎週、火曜日から木曜日を「あいさつ運動」の日として、特活部職員・執行部員各クラス議員の当番で、校門で登校する生徒にあいさつを行った。 ◇　特活 ・毎月の部活動実施計画・実施報告の速やかな配付・回収を行った。 ・部活動の成果を Daikou－svr で管理し、各部署で利用できるような形態を工夫した。 ・部活動の表彰伝達・壮行会を執行部や応援団員の生徒の手で行うことで、生徒のリーダーとしての意識を高め、各部の努力を他の生徒にも知ってもらうことで、部活動への積極的な取り組みを促した。 ・転部を申し出る、また、所属はしているが参加していない１年生の生徒に部活動への取り組みについて指導を行い、部活動への参加意欲を喚起した。	①定例の執行部会を生徒が自主的に運営でき、各種行事が円滑に行えたか。 ②生徒のあいさつする習慣は定着したか。 ③部活動の活性化ができたか。 ④１年生の部活動全員加入を実質的に実現できたか。	(A) B　C　D A　(B) C　D (A) B　C　D (A) B　C　D

11 成果・課題		総　合　評　価
	○生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事を円滑に運営できた。 ○執行部の生徒達に、学校のリーダーとしての自覚を促したことで、積極的な活動ができるようになった。 ▲来年度一般公開に向けて、文化祭のあり方（取り組む姿勢）について、学校全体で再度検討する必要がある。 ▲１年生の部活動参加について、係から直接該当生徒に指導してきたが、学校全体で、引き続き、対策を検討する必要がある。	A　(B) C　D

12　来年度に向けての改善方策案

・学校全体で、特別活動に対しての意義・目的を再度確認し、組織構成、人員配置、協力体制を確立する（生徒の成長という視点での学校行事の位置づけ等）。